

## 全国草原再生ネットワークが目指す未来

草原の価値が見直されつつあります。

農業や生活のための資源としての価値だけでなく、環境保全、環境教育、福祉、農村の文化、生物の多様性など、様々な観点からたくさんの人たちが草原に関わりを持つようになってきました。農業従事者、研究者、観光業者、あるいは一般市民など、色々な人たちが「野焼きができなくなっている」、「草原が減ってきている」という危機感を、それぞれの立場で感じています。しかし、草原の価値が多様であるほどに、それをとりまく様々な課題も生じているのです。

草原がかかえる問題を明らかにし、日本各地の草原を有する自治体間の交流の輪を広げ、連帯を密にしていくという目的のもと、1995年、大分県久住町において初めての「全国野焼きサミット」が開催されました。その後、「全国野焼きサミット」は「全国草原サミット」と改称され、あわせて、市民レベルでの話し合いや情報交換も「全国草原シンポジウム」として続けられてきました。

各地で草原に携わる人達が、これまでのサミット・シンポジウムを通じて共有したことがあります。それは、草原を保全し、再生につなげていくためには、全国で草原再生活動を行っている（あるいは行おうとしている）個人・団体の連携を通じて、草原の持っている価値・意義を再評価していくことが不可欠であるということです。

「草原再生ネットワーク」は、地域を越えた連携を通じて、大きく・多様な草原の価値を未来に渡って享受していく、持続可能な社会の形成を目指しています。

### 全国草原サミット・シンポジウムの開催状況

- 第1回 1995年 大分県久住町（久住高原）
- 第2回 1997年 島根県大田市（三瓶山）
- 第3回 2000年 北海道小清水町（小清水原生花園）
- 第4回 2001年 山口県秋芳町（秋吉台）
- 第5回 2002年 熊本県久木野村（阿蘇）
- 第6回 2003年 長野県諏訪市（霧ヶ峰）
- 第7回 2005年 鳥取県江府町・岡山県真庭市（大山・蒜山）
- 第8回 2009年 広島県北広島町（芸北）
- 第9回 2012年 群馬県みなかみ町（藤原）
- 第10回 2014年 熊本県阿蘇市（阿蘇）
- 第11回 2016年 兵庫県新温泉町（上山高原）
- 第12回 2018年 宮崎県串間町・川南町（都井岬・川南湿原）

## 入会方法

全国草原再生ネットワークの趣旨に同意いただける方は、年会費をお振込み下さい。

年会費	正会員	賛助会員
個人	3,000円	1,000円
団体	10,000円	5,000円
特典	■全国草原ネットホームページへの情報登録 ■会員用メーリングリストでの情報交換 ■全国草原ネットのニュースレターを送付 ■全国草原ネットの総会における議決権(正会員)	

### 振込先

山陰合同銀行（金融機関コード 0167）

大田市店（店番 033）

普通 4504565

一般社団法人 全国草原再生ネットワーク

※ 入金確認後に会員として登録いたします。

※ 会費会計年度は毎年5月1日から4月30日までです。

入会時に一括納入とし、途中退会時の返金はいたしませんのでご了承ください。



一般社団法人  
全国草原再生ネットワーク

<http://sogen-net.jp/>

- 【会長】 高橋 佳孝（阿蘇草原再生協議会）
- 【理事】 井上 雅仁（島根県立三瓶自然館）  
白川 勝信（芸北高原の自然館）
- 【監事】 太田 陽子（NPO 法人 緑と水の連絡会議）

（2020年6月現在）

【事務局】 〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 378-14

電話 / 0854-82-2727 FAX / 0854-82-8899

E-MAIL / [yositaka@biscuit.ocn.ne.jp](mailto:yositaka@biscuit.ocn.ne.jp)

一般社団法人  
全国草原再生  
ネットワーク

原っぱで  
ねころがって  
青空みれば  
ころもいっばい  
いきもち



# なぜ草原が必要なのだろうか？

## 失われゆく日本の草原

草原は火入れ、放牧、採草など、人の営みによってはぐくまれ、日本各地にふるさとの原風景と呼べるすばらしい景観を作り出しました。しかし、明治時代には国土の約3割以上を占めていた草原は、高度経済成長とともに利用されなくなり、現在ではその全国土の1%以下にまで減少しています。数百年以上をかけた農村文化の象徴とも言える草原が、いま、失われようとしています。



## 草原が育くむ自然

一見すると緑一面に見える草原には、実に多様な植物が生育しています。森林にも劣らないほどの植物の多様性は、それを食べる昆虫や草食動物、さらに食物連鎖の高位にいる肉食動物の生息を支えています。いわゆる「改良草地」と呼ばれる人工的な牧草地には、外国産の牧草が播かれていますので、生態系は非常に単純です。生物の多様性こそが本来の草原が持つ姿なのです。



## 文化としての草原

豊かな自然を支える一方で、草原は様々な文化を産み出してきました。春先に行われる野焼きや、草を利用する技術は、その土地の風土や地形によって形作られ、日本各地で地域固有の農業文化を形づくりました。草原の景観が持つ価値の高さは、国立公園や国定公園の指定要件に各地の草原が盛り込まれていることから明らかであり、観光資源として大きな役割を果たしています。さらに近年では、草原を題材として質の高い環境教育が行われています。



## 草原の保全、草原の再生

絶滅が心配されている草原性の動植物にとって、国内に残された生息地はごくわずかです。そして、その草原を支えてきた山焼きをはじめとする地域の文化も失われようとしています。草原は、生物多様性と地域文化の醸成という両方の面において重要な役割を担っており、次の世代に引き継いで行くべき自然環境です。森の国と呼ばれる日本で、草原の保全と再生は、至急に取り組むべき国家的な課題です。



# 日本の草原が消えていく

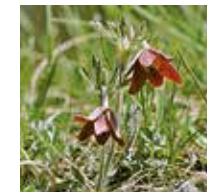


明治時代の地図には、草原があったことを示す「荒地」の地図記号がたくさん見られました。現在の植生図で「草原」の色で塗られる場所は、ごくわずかです。

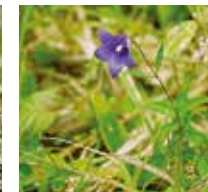
30%以上が草原

草原は大幅に減少

草原は1%未満



オキナグサ



キキョウ



ムラサキセンブリ



ヒゴタイ



キスマレ



オオジンギ



ウスイロヒョウモンモドキ



ダイコクコガネ



こども

# 草原に生きる絶滅危惧種